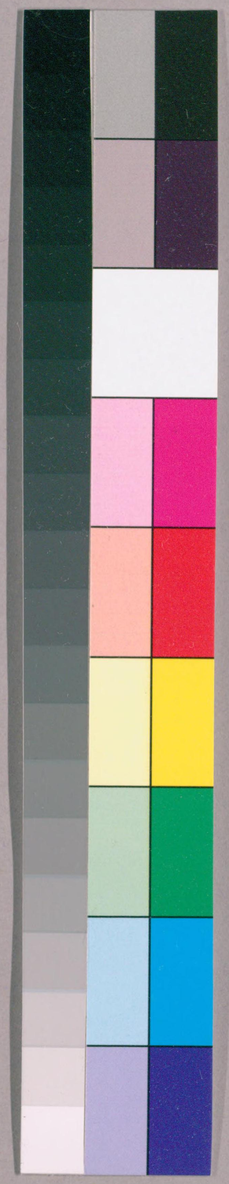
817
109
1



国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

甲

第六柳

一ノ百九十二

御觸書

天保屋蔵

五十九

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

寺社之部

文化十四丑年八月

寺社奉行之

一寺社領寺社門前之内ニ而為
出家又ハ山伏修験之外ニ妻帯
いたし候もの有之候ハヽ其住
職ハ勿論妻子共ニ早速可申
付候

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1
ガラス使用

文化十四丑年八月

寺社奉行

池上本門寺之重宝備後介御預ケ被
仰渡候ニ付而ハ御本尊ハ勿論御
本門寺ニ可有之申渡候ニ付其旨

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

文化十四丑年十二月

寺社奉行

相州鎌ヶ岳八幡宮社頭并末社
神寶道具裝束類悉焼失候段
神主少別当不預り候ニ付
以つて不遠日修復可
仰出旨得

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

右趣旧例復旨仰出迄今七百余
旨下並仰留候様向之勿論其外ニも亮ヶ不
有之候ハヽ如何様ニも可成ニ旦ヶ年ニも
未保ハ様自分之ニ而可取諸遠方使僧趣代
神主ハ別而ニ可旨下渡ハ

文化十丑寅年三月

上州勢田郡
寺社奉行
徳川卿

右國役普請之儀願之通被
仰付候
同村往還土橋之儀自普請ニ可被

卜波ハ左法勤定奉行可致候

文化十丑寅年四月

大目付ヨリ

三河遠江

三列長柄伊賀ヘ備并ニ

紫田伊織

伝濃
山城
摂津

右伊賀八幡寺社其外神祭ホ大祓ニ付
修復為助力右之國勧化
御免寺社奉行連印之勧化状持参
當寅五月より来ル辰五月迄廿料私領

寺社領並町可被致巡行ホ旨伝作之輩ヲ
始メ多ク二ヨリ可被尋進旨古料ヲ
出代官私領ヲ領主地頭ヨリ可ヲ
申渡ホ

寅四月

右之通可ヲ相觸ホ

文政元寅年六月

寺社奉行ヨリ

三列風来寺沙用之儀寺社奉行ヨリ廻
可訴之旨書面事有之ニ付八廻訴之儀
外間天台真言宗学政等事ニ付外条
若曳有之可免訴有之訴山ヨ

家来老之者出仕要遣皆之族於有之者
可申少者是非并上洛之勤来ル通
水野左近将監百姓ニ成
左近物監河内守ニ
得其意ル

文政元寅年十二月

大目付ヨリ

武荒
土總

相州箱根権現別當
金剛王院

下総

右諸堂社悉大破修復為助成右三ヶ国
三ヶ年之間勤化
御免寺社奉行連下之勧化状持参被僧左
来卯三月ゟ来ル巳三月迄御料私領寺社領
左御免可被遣候伝仰之事之為之間ゟ
よろしく可被申遣旨御料を出代官私領を
頒主地頭ゟ可申渡候

寛
十二月

右之通可申渡候

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

文政二卯年六月

大国行ト

奥御

吉松寺

武蔵

信濃

右ハ営業其外焼失ニ付再建為助成右二ヶ国ハ
浄厳院殿家方ヨリ
浄光寺社参ニ連来ル二付勅使被遣
尚和八月ヨリ来ル年七月迄ニ私領ヨリ
上納ニ可致巡行ハ官位ニ寄候ハ、
よろしく可致斟酌ニ候
頒主地ニ於テハ代官私領ヨリ
頒主ニ於テハ

卯六月

右之通可相触候

文政二卯年八月

寺社奉行ヨリ

智恩院ヘ

明廿七日

浄對顔ニ付而之大半時光

城ニ事旦又宮某ニ書出ル家来ヨリ有

文政二卯年八月

寺社掛ヲ以ヲ

明廿九日御能ニ而

ニ方様　右大将様大廣間

出御ニ而　御養恵海ニも智恩院

御門跡ヨリ於御白書院

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

御對顏有之候事

八月廿八日

文政二卯年八月

寺社奉行

九月二日

智恩院浄門跡

右登 営中出席之大廊下休息所ニ而申渡

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

一於御黒書院御上段御簀垂有之事

御座間三方

仁方掛　右大将掛

御對顔有之事

柳之間

智恩院門跡

三雄九

文化二年乙丑八月

藤秩間

仁同人院家

至誠心院

仁同人倍

上若寺

同所

保徳院

坊官

右之者共儀仕出之節於座敷ニ酒肴理
家司
申下出事

右之通可申渡旨言出

文政二卯年九月廿
大目付

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

右之者共
名主
酒肴差出候人
当番二人
大目付二人

右ハ二日知恭院依
御發意ニ有之時節
城内廊下通未詰
町年行人
出勤之年行人
出仕事年行人
出番詰年行人

右ハ二日知恭院依
御發意ニ有之時節
城内廊下通未詰
町年行人
出勤之年行人
出仕事年行人
出番詰年行人

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

文政二卯年九月

大目付ゟ

明二日知恩院御門跡
御着ニ而ハ伝奏屋敷
江御時刻
御城江被
為入候間
其節ハ
御玄関
御式台
御下ニ而
御乗物
御請取
御供之面々
御玄関
御式台
御上江
御通り
御座敷
江被為
入候様
可被取
計候
尤
御玄関
御式台
御下ニ而
御乗物
御請取
御供之面々
御玄関
御式台
御上江
御通り
御座敷
江被為
入候様
可被取
計候
尤

九月朔日

文政二卯年九月

寺社奉行

来ル十二日智恩院江門跡
御簾中様
御薨顔
日光御門跡

御触書集成

九月七日

文政二卯年十一月

寺社奉行

一 寺院本堂門前方寺外ニ而
　　安永四年以来返済方滞流相止ニ而捜訳
　　相立難キ捨金高不残
　　公儀ニ差出ス寺社又ハ代官ヨリ

利足共年限を定め貸附いたす者に相成候て変
而後支足返貸附これ成兼候分を格別
新規貸附く候節容易に不取扱門跡方
比丘尼寺末寺領おゐて之分に而実に修復料ホ差支候
何卒格別筋合を以分を歩永く返達く通
願金高為差出元高金銀高極置
貸借利倍年延願ホを雖成丈取扱置

可申候

一相対に而貸附貸先名前金銀高届置候分
元高取調之節改而為届候事
高より不取揚相達百一揚以分を返済
滞以来於奉行所不取立積者格別く
浄土宗諸寺院貸附高揚別帳中立以を
取調く上不届を貸附方ホ等罪ニ不相成揚

相應之引當を取り候又は町役村役連判
證文を以貸渡一貫目以下小貸し向迚も
田畑入置可申貸附中絶し分を月令
不取届分は
右之通今度改而相定候間達ける得
其意何歳たり立ち向も有之候を右之趣を以
取調ハ相可申候ハ

文政二辰年三月

寺社奉行ハ

上州碓川濱碓寺旧修復ニ付
及沙汰為加助金之拾五ヶ年賦
より取組ハ相可申濱ハ

文政二辰年六月

大目付江

令到候

右之地堂其外江戸藩道具土大破之分

修復為助成金壱千両差遣候

寺社町方勧化
御免寺社年行連名勧化状指添役僧共
当辰七月ゟ来ル年六月迄四箇寺社願
主町可被巡行候百信仰之輩共相
勇かこよつて可被寄進旨四箇寺社代官
私領共領主地頭ゟ可被申渡候
辰五月

右之通可被相触候

文政三辰年五月

寺社奉行

令掌寺

右諸芸社大破ニ付許偏令ニ依相願ハ

去ル酉年為仕替金百両差添浮ヶ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1　　ガラス使用

来候後不納届難儀之由ニ付格別之訳を以
金三百両弁償被仰付候ニ付而ハ返納之儀も
来巳年ゟ社領弐百石ゟ内百石宛ゟ所
返納相済候迄上ヶ地ニ被成置候様可被申渡
旨勘定奉行ゟ可申渡候

文政三辰年六月

寺社奉行

御庭番ゟ代官ニ
覚樹王院ゟ被
六月

文政三辰年九月

寺社奉行

御庭用ハ俄後ニ分ハ地続

九月廿三日　辰下刻

ハ安達

同日　巳下刻

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

右之通仰付其意覚樹王院江可申達旨

九月

文政三辰年九月

寺社奉行

御座間江御後ニ付御地頭所江安堵日限
之儀両月廿日迄右辰年中撰之御祈
覚樹王院江可申渡旨

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1
ガラス使用

文政二辰年九月

寺社奉行江

御庭間之地続之内安藤侯相勤之分

銀二十枚

覺樹王院

同　十枚

院家

東叡山之別当

梁覺院

同又牧宛

同十牧

東叡山
一
寄
院

同
寶
勝
院

東叡山山別當
大
慈
院

東叡山
俾
禅
院

同又牧宛

同
見
明
院

立府山門
常
智
院

東叡山
真
如
院

立府山門
寶
泰
院

東叡山
等
覚
院

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

同訳校完

右之通被下仰写其旨可

被仰渡候

十一月

人

人

文政三辰年十二月

大目付

三河

信濃

専修寺末

三列栗子村

妙源寺

越前
越後
播津

右本堂吹挫ニ付再建為勧化右
五ヶ国并泊所内武家方五町之ヶ年
之間勧化
御免寺社奉行連印之勧化状持来

右之通可被相触候
以上
辰十一月

被仰出候ニ付来ル酉十二月ヨリ
御料私領寺社領五町可被巡行
候間多人ニ而ハ可被
参候間御料ハ代官私領ハ
地頭ヨリ可申渡候

文政三辰年十二月

大目付ゟ

駿河国駿東郡
富士浅間神主

駿河

三河

徳松伊織

右富士浅間本社来社大破ニ付修復為
助成右郡ヶ國勧化
御免寺社奉行連名ヲ以勧化状差
遣巳三月より来ル申二月迄三ヶ年ヲ限
御料私領寺社領共可致巡行ハ勿
論伝馬ヲ以ヲ不及ましく可致旨通
御料ヲ以代官私領ヲ以地頭ヲ以

可申渡ハ

辰
十二月

右ヲ通可申相触ハ

文政四巳年正月

寺社奉行

鷹司雅信殿

右条向ニ付而ハ保天徳寺ニ於テ之所ニ
相成候哉其旨可申渡候

文政四巳年五月

伊勢

寺社奉行

慶光院

右靈牌納屋類焼ニ付神明社遥拝所ニ而
仏事料ニ而法事勤修可申旨ニ付

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

吉倹納申之事仍滑井白銀百文拾枚吉下
仍留其旨可言上渡仍而吉日勅定奉祈
可言渡仍
如件

文政四巳年九月

大目付印

山城國宇治
黄檗
萬福寺

摸洋
橋磨

右諸堂伽藍修復為助成右二ヶ國勸化
御免寺社奉行連判を以勸化状持参役僧を
尚巳十一月ゟ来ル申十月迄御料私領
寺社領共町可致巡行心得志ゟ寄ゟ
物ゟ多少ニよらず可致寄進旨御料ゟ
地代官私領ゟ領主地頭ゟ可申渡候
巳九月

右ゟ通可被相觸候

文政巳巳年十月

大日射山

谷中

瑞林寺

上巻

下巻

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

右諸堂大破分修復歟迎堂表門裏門
再建為助成右二ヶ國并御屋門武家方
寺社並町勧化
御免寺社奉行連判勧化状指案被僧を
来午正月分来ル申十二月迄三ヶ年之間
御料私領寺社領並町可被巡行之間
信仰之輩志物之多少ニよらず可被
勧進旨御料八佰代官私領ハ領主地頭分
可被申渡候
巳十月
右之通可被相觸候

文政二年辛二月

寺社奉行

池　　坊

来ル十二日於

御城立花相勤ル旨被

二月八日

文政五年二月

寺社奉行

三列

妙心寺

信光明寺

右寺領三石額田郡岩津村地内川除普請之儀
頼之通被　仰付候間其旨可被申渡候

仍勅定奉候可被読上

文政五午年二月

武州葛飾郡小岩村
本山方修験大先達

不動院

武蔵

下総

下野

右弦巻社大破ニ付修復為御成右二ヶ国
勧化
御免寺社奉行連名を以勧化状持参
被備とも当午九月ゟ来ル酉八月迄
三ヶ年之間渉猟私領寺社領在町
可被巡行之事を指之多少。

午
二月

よろしく可被取進旨渉猟を以代官私領ハ
順を地頭ゟ可被下渡候

午
二月

文政五年午年四月

大国社

遠江

遠州周智郡山住村
熊野権現神主
山住陸奥

三河
信濃
越後
相模
伊半

右熊野権現本社共外末社及大破
修復為助成右七ヶ国五ヶ年之官

勧化

右兎寺社奉行連名を勧化状持参
国平五月ゟ来ル亥八月迄弐拾弐私領
寺社順在町可致巡行信仰之
輩を招き多少ニよらず可致奉進者
弐拾弐ヶ所私領ハ順を地元ゟ
可汲尸波ハ

辛
十月

右之通可申沙相觸旨

文政弐辛年六月

寺社奉行

寺社奉行之
廻文使約之儀
仰渡候 仰出候事ニ
候得共 廻年之内
諸家 諸系譜
寺社所修復共外
入用ニ 拘

頼之候共不及沙汰
相心得可
六月

文政五午年十二月

黄檗山萬福寺住職
先格之通り許備相勤
免支仏法弘教第一ニ
永　仰付通納方之儀
松平伯耆守
仰付入院ニ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1　　ガラス使用

九拾坪餘洋備荒
可被申渡旨元町年行司永後ゟ

文政六未年七月

大同行ゟ

武蔵
上野

上州館林
愛宕別当
奥義寺

右愛宕社其外大破ニ付修復為加成右
式ヶ国并市府内武家方寺社町方勧化
門免寺社奉行連名ヲ以勧化状持参尚来ル四月ヨリ
来ル戌三月迄三ヶ年ヲ限リ諸州私領寺社領
並町町被巡行伝仰ヲ蒙リ
多少ニよらず可被奉進旨御料ヲ以代官
私領ヲ領主地頭ヨリ可申渡ル

未三月

右之通可申渡旨御触ル

文政六未年九月

大目付ゟ

武蔵
上野

上州徳川
永徳寺

右本堂玄外焼失ニ付再建為助成勧化
上野武ヶ國勧化
御免寺社奉行連判
申二月より来ル戌四月迄御料私領寺社領
在町ニ我巡行ニ付信徒ニ而
よろしく我参進旨御料
領主地頭より可申渡
未八月
右之通可申相触

文政六未年九月

寺社奉行

神田明神祢宜

芝 濱豊後

右神田明神祭礼道具及大破ニ付
仮修復之儀再應相願ニ候節ニ

相國以名爲以手當
手限可令下濟以令
相談可令請取以

文政六未年十月

大日付ト

河内國河内郡
平岡大明神社務
水乞刑部

掃津國

右平岡社其外大破有修復爲助成

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

勧化

浄免寺社寺訴連帰勧化状持来
申正月ゟ来ル酉十二月迄浄
可被巡行旨信仰之者多分ニ
よって被差進旨浄料私領五町
領主地頭より可為申渡旨
未十月

右之通可被相触旨

文政六未年十二月

大目付
山城國守治
英樂
筭福寺

右諸伽藍修復為助成之旨十一月
朱印十月廻状播磨訥ヶ國新化

御免被成下可被遊候事

去ル乙年病死ニ付不被遊御訪候

卯ヶ閏来申正月より来ル戌十二月迄

三ヶ年之間当住寺福寺被得寺社奉

連帰り勤化状村高御料私領寺社領

之町可被遊御訪之旨志ル輩を相ゝ多分ニ

ゟ可被参進合御料を市代官私領ハ

領主地頭ゟ可

朱十一月

右之通可被仰渡候

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1
ガラス使用

文政七申年三月

大目付ゟ

三河
遠江

三州碧海郡
大濱村
称名寺

駿河
奥濃

右備當大破付御援為助成右四ヶ国奥
山、府内武家方寺社町方ゟ年〻写
勧化
御免寺社年分連〻勧化状村条
被仰出候尚申六月迄御料
私領寺社領之町可被廻
業を励し多少によらず可被参進名前料を
以代官私領ハ地主地ゟ可被申渡
申二月
右之通可被相触候

文政七申年閏八月

大目付

武家

上野

上野国甘楽郡八幡村
西八幡別当
神徳寺

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1

ガラス使用

右八幡社既大破ニ及候ニ付修復為仕成右
弐ヶ国三ヶ年ニ百俵
御免米ヲ以社参運送ニ而勧化
来酉六月より来ル五月迄四ヶ年社限
ニ而勧化仕度旨願出候ニ付而ハ
御触書等を以四ヶ年之間勧化
出来候様ニ可取計候
右之通可申渡候

申酉八月

文政七甲年九月

寺社奉行

金地院

月沢御礼廻出仕如先格為心得可申渡候

文政七申年十二月

寺社奉行

東本願寺去未年焼失二付富士山伐林木
洋領之儀再應相願候ハヽ御許可及
言上ハヽ其節由緒伐旧例を以
思召格別之伐沙汰を以伐木可被下旨

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

右御出之節富士山仕林之内を雑相成
飛州仕林之門口ニ而先格より負数減ス下ニ而
可有之ハ右仕林之場所ニ而木負数ニ
相応候迄ニ可相達ハ勿論伐出之運送ニ
本願寺入用を以可申ハ且又寺院
仰事之儀を奉保年中ニ
有之ハ官以前より一二等ニ取縮荘厳ニ

成丈多造ニ相成ハ
申達ハ格ニ而ハ沙法ニハ右之趣使僧
願照寺ニ可申相達ハ

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』　請求記号 817-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

817
109
1

国立国会図書館　タイトル『御触書集成』 請求記号 817-1

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『御触書集成』請求記号 817-1